

政策評価調書(22年度実績)

政策名	安全・安心な暮らしの確立		政策の目的等	県民と行政が連携し、台風や地震などによる自然災害、食品の偽装表示、悪質・巧妙化する犯罪等、さまざまな「危機」から県民を守るとともに、県民の「危機管理」意識の向上を図ることで、安全・安心な暮らしの確立をめざす。	主管部局名	生活環境部
	政策コード	I-2			担当課室名	県民生活・男女共同参画課

【政策を取り巻く社会経済情勢】

今後の動向	<p>台風や地震など突発的に発生する自然災害に加え、社会経済情勢の多様化・複雑化を背景とする様々な事件、事故の増加により、社会不安は増大しており、県民の安全に対する関心は一層高まっている。</p> <p>このような状況の中、県民の生命・財産を守るとともに「危機管理」に対する意識の向上を図り、安心して暮らせる社会をつくる施策の充実が強く求められている。</p>
-------	--

【政策を構成する施策の評価結果】

施策名		評価結果		政策との関連度
		業績評価	主管部局評価	
1	災害に強い県土づくりの推進	概ね達成	拡充	◎
2	犯罪に強い地域社会の形成	達成	拡充	◎
3	安全で快適な交通社会の実現	達成	現状維持	○
4	食の安全・安心の確保	概ね達成	現状維持	◎
5	県民生活の安定と向上	達成	現状維持	○

【構成する施策に対する意見・提言】

<p>○災害に強い県土づくりの推進(「安心・活力・発展プラン2005」見直し策定委員会(平成23年5～7月))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災対策として、どこに逃げるべきかは、住民自らが把握しておくべきではないか。 ・防災計画等は、統一的なマニュアルでなく、様々な場所等に応じたものが必要。 ・防災対策として、住民が自分の地域の標高などを知るといった必要性を追加したらどうか。 ・被災者に接するにあたっては、一人一人が大きな被害者であるという意識が必要ではないか。 ・防災計画やハザードマップなどの周知徹底が重要ではないのか。 ・防災は多岐にわたり、全部網羅できないので、地域防災計画にのっとって進めるという表現にしてはどうか。 ・治山・治水のハード施設は、維持、補修、補強が重要ではないか。 ・1,000年規模の災害など、想定外の災害にどのように対応するかが課題であり、ハードだけでなくソフトを絡めて対策を講じるべきだ。 ・常日頃から防災を意識し準備を怠らないように、防災のキーワードに「日常防災」を入れたらどうか。 ・津波に対する防災のため、電柱などにわかりやすい海拔表示をしたらどうか。 ・想定を超える自然の力を子どもに伝えることが必要ではないか。 	<p>○安全で快適な交通社会の実現(「安心・活力・発展プラン2005」見直し策定委員会(平成23年5～7月))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通事故負傷者数には、何年後遺症を抱えた負傷者数も必要ではないか。 ・交通事故死者数は24時間以内の死者数が適当か検討してはどうか。長いスパンも検討が必要ではないか。 ・交通安全教育は、学校や公民館単位で対象者別に行ったらどうか。 ・交通安全教育の指導者にボランティアを活用したらどうか。 ・安全な交通社会の実現のために、30年間無事故無違反者が違反者を取り締まれるような制度は導入出来ないか。 <p>○食の安全・安心の確保(「安心・活力・発展プラン2005」見直し策定委員会(平成23年5～7月))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食の安全・安心の確保のためには監視体制だけでなく、消費者に生産現場を知ってもらうための情報開示などを基本方向に加えるべきではないか。 ・早寝、早起き、朝ご飯。家族一緒に食事の必要性や学力と朝食の相関関係を追加したらどうか。 ・食育の推進ため、作物を育てるといった経験をさせ、食物を大事にする心を育てることが必要ではないか。
---	--